

# 緩和ケア通信令和3年第2号

令和3年6月30日



## 津島市民病院緩和ケア病棟理念

つね(常)に寄り添い  
しんし(真摯)な心で  
まごころ(真心)こめて  
その人の持つ生きる力を支援いたします

## もっと知って緩和ケアQ&A

Q：病状が進んできて、食欲がなくなってきました。食べないともっと体力が落ちてしまうのではないかと心配です。どうしたらいいのでしょうか。

A：終末期の患者様に無理に食事を勧めることは気持ちの辛さに繋がってしまいます。ご本人が食べたいものを食べたいときに、食べやすく提供することを考えます。エネルギー量や栄養バランスよりも、少しでも食べられることを優先し、「おいしかった」と満足してもらえるように努めます。

**食べるための工夫とともに無理をさせない配慮が大切です。**

のど越しがよく、ひんやりしたものを好まれるため、茶わん蒸しやプリン、ゼリー、アイスやシャーベットを勧めてみましょう。当病棟では、かき氷器を用意しており、患者さんにお好みのシロップを同って、イチゴやメロン、レモン、せんじ味などのかき氷を提供しています。水分と糖分が補えます。また、栄養士に相談して、食事内容をできる範囲で患者さんのお好みに対応しています。

緩和ケア病棟では例年5月には天王川公園の藤の花見に患者さんとご家族をお誘いして出かけていましたが、今年もコロナの影響で花見を断念しました。

各個室でのお茶会を開催し、コーヒーや抹茶などお好みの飲み物とお菓子でゆったりとした時間を過ごしていただきました。



緩和ケア病棟の紫陽花や百合が今年もきれいに咲きました。梅雨の合間の晴れの日、談話室の窓を開けてそよ風や花見を楽しんでいただいています。

8月のイベントは夏祭りを各病室で開催予定です。手作りうちわ 駄菓子の抽選会など企画をしています。

ご家族の皆さまには、コロナウイルスの感染対策のため面会制限にご理解とご協力感謝いたします。

職員はコロナウイルスのワクチン接種を2回実施しました。

感染予防に今後も努めてまいります。

